

(様式1)

平成17年度 事務事業評価表

記入年月日	平成17年4月15日		記入者		内線	2364
部 名	企画部	課 名	さがみはら都市みらい研究所	課長名	佐藤 広	
事務事業名	政策アドバイザー事業					
予算上の事務事業名	政策アドバイザー経費					
1 総合計画における位置づけ			施策コード			
基本目標						
政策名						
基本施策名						事業開始年度
施策名						平成15年度 ▼
2 実施根拠及び関連法令・条例等	相模原市行政組織及び事務分掌規則・相模原市政策アドバイザーの設置に関する要綱					
3 個別計画の概要	概要					
計画名						
計画年次		年度～		年度		
4 事業形態の区分	調査・研究 ▼					
5 事業概要						
(1) 事業の目的(何のために行うのかまたはもたらしたい成果)						(2) 対象(誰、何)
学識経験者や有識者から市政全般に関する助言を受けることで、地方分権時代に相応しい自主的かつ自律的な政策の展開を図る。					理事者、職員、市民	
(3) 平成16年度事業の内容(活動)・・・いつ、どのような方法で実施した内容(活動)なのか。						
<ul style="list-style-type: none"> 政策提言アドバイザー(理事者等への政策提言・助言等) <ul style="list-style-type: none"> 懇談会での助言(企画部長、政策スタッフなどを対象) 平成17年3月14日 研修会(自治基本条例について11/16、総合計画の今後のあり方等12/8) 相談業務等(主要事業計画6/22、研究所運営会議1/21、NPMに関する研究報告アドバイス2/28) 共同研究アドバイザー(共同研究「都市内分権」への助言等) <ul style="list-style-type: none"> 第15回研究会～第36回研究会(22回)、報告書「第2章」への執筆、市長への報告 課題助言アドバイザー(個別課題に応じた助言・相談等) 6件(4課) <ul style="list-style-type: none"> 「市街化調整区域の立地条件等について」他 平成16年5月18日、11月17日、平成17年1月11日、3月4日、3月18日 各2時間 大学教授等からのアドバイス 						
6 関連・類似事業や他市の状況						
7 事業費の推移	[単位:千円]					
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)	
事業費	0	2,024	1,750	2,430	2,430	
一般財源	0	2,024	1,750	2,430	2,430	
受益者負担金	0	0	0	0	0	
その他の特定財源	0	0	0	0	0	
人件費の合計	0	801	807	807	807	
事業コスト合計(a)	0	2,825	2,557	3,237	3,237	
8 事業効率・・・(複数の事業で構成されている場合は、その中の主たる事業)						
主たる事業名	政策アドバイザー経費			対象名称(単位)	年間利用件数	
年 度	平成14年度(決算)	平成15年度(決算)	平成16年度(決算見込)	平成17年度(予算)	平成18年度(見込)	
事業コスト(主たる事業)	0	2,825	2,557	3,237	3,237	
対象数	0	5	6	10	10	
単位あたり経費(円)		565,000	426,167	323,700	323,700	
前年度比			0.75	0.76	1.00	

9 活動指標・・・実施した内容（活動）の数値化					
指標名 (単位)	課題助言アドバイザー利用件数	指標式と指標の説明		年間利用件数	
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度(目標)
実績	0.0	5.0	6.0		
目標	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0
目標達成度			0.60		
10 成果指標・・・対象と意図の達成度を表す指標					
指標名 (単位)	施策への反映率(%)	指標式と指標の説明		施策反映件数/利用件数*100 アドバイスを受けた課題の施策反映の割合	
	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度(目標)
実績	0.0	0.0	0.0		
目標	0.0	0.0	0.0	90.0	90.0
目標達成度					
11 個別評価					
(1) 妥当性の評価 【A：妥当である・B：妥当性に課題がある・C：妥当でない】					
B	<input type="checkbox"/>	法令等により実施することが義務付けられている。			
	<input type="checkbox"/>	法令等に定められた市の責務を具体化して実施する事業である。			
	<input type="checkbox"/>	公益性が高い、または必需性が高い事業である。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	将来にわたって、市民のニーズや行政需要がある。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	税金を投入して実施するにふさわしい事業であり、市民にも説明できる。			
(2) 有効性の評価 【A：有効である・B：有効性を高める余地がある・C：有効でない】					
B	<input checked="" type="checkbox"/>	上位施策の目的を達成するために大きく貢献している。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	課題等の解決や市民生活に大きく貢献している。			
	<input type="checkbox"/>	成果指標の実績値とその推移から見て、期待されるような成果をもたらしている。			
	<input type="checkbox"/>	事業の対象範囲は適切であり、対象は事業を実施したことによる効果を楽しんでいる。			
(3) 効率性の評価 【効率が良い・B：効率性を高める余地がある・C：効率が悪い】					
B	<input checked="" type="checkbox"/>	単位あたりの経費は適正である。			
	<input type="checkbox"/>	これ以上コスト節減の余地がない。			
	<input type="checkbox"/>	受益者負担や補助等の割合に問題はない。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業の実施方法や実施体制は適正である。			
(4) 民間活力の導入の可能性 【有・無】					
無	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が経費の節減に繋がる。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方が技術・知識面で優れている。			
	<input type="checkbox"/>	業務の一部または全部について、民間で実施する方がサービス面で優れている。			
	<input checked="" type="checkbox"/>	民間では実施していない、または市が実施する方が優れている。			
12 総合評価					
(1) 自動判定結果					
	[]：良好な状態を維持する事業			
	[]：概ね良好な状況である事業			
	[]：見直しを行う必要がある事業			
	[]：抜本的な見直し、休止、廃止を検討すべき事業			
(2) 担当課の課長による評価（今後の方向性）			(3) 課長の評価に関する説明		
現状維持	<input type="checkbox"/>	拡充・充実		行政課題の専門化、多様化、広域化に伴い、行政内部だけで課題解決に向けた施策立案をしていくことが一層難しいものになってきている。それには学識経験者や有識者など外部の知的資源を有効に活用するアドバイザー制度は、今後も極めて重要な役割を持つものと思われる。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			
13 成果の向上及び効率性を高めるための方策			14 課題として認識されたこと		
事業担当課でアドバイスが必要とされる時期、例えば主要事業計画要求時や予算要求時において当該アドバイザー制度を積極的に周知することで、効果的な活用を図る。さらに、課題に対する確かつ迅速にアドバイスができるよう、研究所としても様々な分野の学識経験者とネットワーク化を図る。			日常業務の中で、常に課題認識を持つ人材の育成。		
15 二次評価					
(1) 行政評価会議による評価（今後の方向性）			(2) 二次評価コメント		
現状維持	<input type="checkbox"/>	拡充・充実			
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状維持			
	<input type="checkbox"/>	見直し			
	<input type="checkbox"/>	廃止			